

「三沢基地研修所感」

株IHII エアロスペース

緒方 規文

- ・ 研修期間:平成19年 11月28日(水)～29日(木)
- ・ 研修基地:航空自衛隊 北部航空方面隊 第3航空団等
米空軍 第35戦闘団

当初の予定であった C-1 輸送機で三沢基地への移動ができなかったものの、生まれて初めて三沢駅に到着し、JAAGA 常任理事と航空自衛隊の方々のお出迎えを受け、これから2日間どういった研修になるのだろうかという期待に胸を膨らませました。

初日の午後は、内田・北空副司令官、若林3空団司令への表敬の後、北部方面隊および三沢基地に関する概況説明を受け、団の構成、主要装備、主要任務・活動内容について理解を深めました。その中で、スクランブルの約半分は北空での事例が多いという北空の防衛事情、毎年盛大に行われている航空祭、全国各地で活躍している三沢音楽隊のお話が印象的でした。

その後、F-2 と F-4EJ 支援戦闘機の実機を前に、その概要をご説明いただきました。隊員の方は、素人の私の率直な質問にも丁寧に対応していただき、本当に勉強になりました。個人的には、F-2 のコックピットに座らせていただいたことが、本当に興奮した出来事でした。次に、アラート地区におけるデモスクランブル研修では、待機しているパイロットと整備士が、緊急発進指令とともに、部屋を飛び出し、戦闘機に乗り込み、エンジンをスタートさせ、滑走路に移動し、飛び立つ直前までのデモでありましたが、あっという間の出来事で、本当に圧倒されました。それと同時に、実際にこのように、航空自衛隊によって領空に侵入する国籍不明機から日本は守られているのかと思うと、本当に感激しました。

夜のオフィサーズクラブにおけるディナーでは、閉会の乾杯のスピーチを英語で行うという大役を仰せつかりました。最初、言葉が詰まってしまってどうなることかと思いましたが、皆様が温かい目で私のスピーチを本当に聞いていただき、大変貴重な体験になったと感じています。ディナーの後の2次会では、三沢基地の外に出て、JAAGA 理事の方々の現役時代の経験談など、普段では聞けない話もたくさん聞くことができ、楽しい時間を過ごせました。

二日目、米軍三沢基地の概況説明の後、F-16 及び搭載弾薬を見ながら、その概要を説明いただきました。搭載弾薬の使用実績や用途など丁寧に説明いただき、理解を深めることができました。それからエンジン整備施設では、韓国の米軍基地からも整備のためにエンジンが運ばれてくる話を伺い、米軍の広く世界的な規模の大きさを感じました。その後、エンジンテストセルでの F110 エンジンのアフターバーナー試運転では、運転の様子をすぐ近くで見せていただいて、ものすごい音で、空気がびりびりと震えるのを本当に肌で感じることができ、その迫力に感動しました。

この研修を通じ、日米連携して日本の北空を守っている姿を拝見させていただき、このように日本は守られているのかということを実感でき、本当に有意義でありました。本当にこのような素晴らしい研修の機会を作っていただいた JAAGA の皆様、またお忙しい中、私達研修生を懇切に受け入れて下さった日米の三沢基地の皆様方に本当に感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。